

第 26 回 コムズフェスティバル 市民企画事業 実施報告書

グループ名	ウエルエイジングクラブまつやま
開催日時	2025年2月15日(土) 10時～12時
テーマ	狙われる高齢者！？ ～老後の安心安全を守るために～
形式	ミニ講演とワークショップ
講師等	講師:松山市市民生活課主査 秀野克幸・相談員 武智幸枝
参加人数	女性 23 名 / 男性 名 【合計 23 名】

〈内容〉

年々、特殊詐欺や消費者被害が増え、その手口も被害の実態も実に巧妙かつ悪質性が高くなっている。被害者の6割は高齢者で特に高齢女性が多額の被害を被っている。高齢期こそ安心して暮らしたいのに、その安心安全が極度に脅かされる時代となっていることから、第1部では「狙われる高齢者の実態」を松山市の消費生活センター担当者と相談員から講演してもらった。

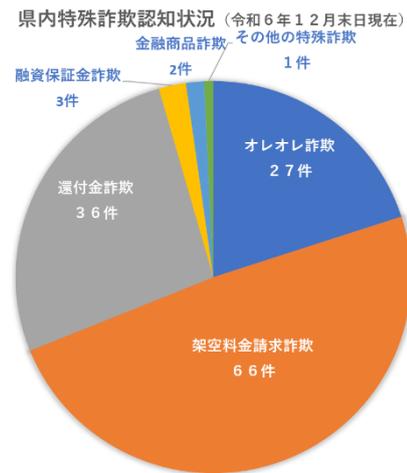
県内特殊詐欺の認知件数は令和6年12月末で135件、金額にすると約2億6千万円。高齢者の多いトラブルとしては、訪問購入、訪問販売、電話勧誘販売、通信販売、架空請求メールや電話、還付金詐欺、ロマンス詐欺などの手口。このうち還付金詐欺で5千万ほどの被害額が出ているがその被害者の92%が65歳以上の高齢者となっている。なぜ、あり得ないような還付金話にうかうかと乗っかって、騙されてしまうのか。なぜ高齢者がターゲットにされるのか。

まず考えられる理由は、1.高齢者は「お金」「健康」「孤独」という不安を抱えている、2.日中家にいるのは高齢者が多く、かつ視力や聴力が弱くなっている、3.高齢者はスマートフォンやパソコンなどデジタル機器に弱く詐欺の実態など情報にうとい、4.お金をタンス預金しているなどが指摘される。

要するに、高齢者は狙いやすい“弱点”を備えているわけである。

これらの弱点に備えることは騙されない高齢者対策の基本条件となるが、それらはまたこれまで高齢者像からの脱皮を促されていることになる。要は穏やかで親切、人を疑うことを知らない高齢者から、自分の安心と安全を守るための自衛・自立型の高齢者に変身していく必要がある。

そこで第2部では騙されないため、様々な防犯グッズ、例えば緊急通報システム、防犯用センサー、ブザー、カメラなどの設置という物理的防犯対策以外に高齢者の生活の自立度とも関連するのではないかという視点から、高齢者の“自立度 UP”を提案した。



高齢者の自立度 UP は、高齢者が狙われる理由の第1の「お金」「健康」「孤独」に対する不安の点検から始まる。

その第一歩として「エンディングノート」の作成を促した。

なぜ「エンディングノート」の準備が必要なのかを説明し、松山市社会福祉協議会作成の「エンディングノート」を配布。それぞれがまず自分のこれまでをたどり、今後に備えるよう記入に際しての説明を行った。時間的に余裕がなく、最後まで記入することはできなかったが、宿題として持ち帰っていただいた。



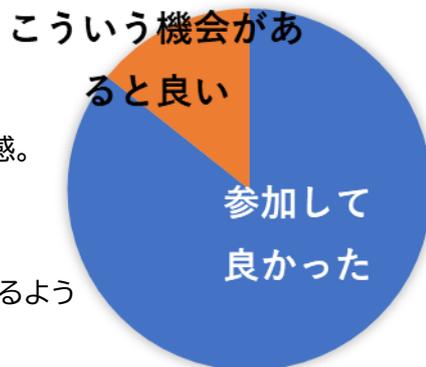
☆☆ 特殊詐欺被害に遭わないための心得 ☆☆

- ① 知らない番号からの電話は出ない！
 - ② 番号非通知でかけてくる犯人からの電話をブロック！
 - ③ 犯人と話をしない
 - ④ 慌てない、動揺しない
- 万一、どうも本当らしい、と思っても、
- ⑤ 振り込む前に、ひとりで判断せず、ご親戚や警察、金融機関等にまず相談を。
 - ⑥ 警察や銀行協会の職員などが、キャッシュカードを預かったり、暗証番号を聞いたりする

〈参加者の感想〉

- ・いつも気を付けていますが、さらに気をつけます。
- ・常に情報を得ておこうと思いました。
- ・こうした学ぶ機会があるといい。
- ・相手の話に乗らないこと、欲を出さないことを肝に銘じている。
- ・知らない訪問者や TEL には対応しないことが大切だと実感。
- ・内容が充実していてわかりやすかった。
- ・40年以上も前からナンバーディスプレイにしている。
- ・アナログからデジタルに変わるなど時代の変化に対応できるように学習し、知識を深めていこうと思っている。
- ・特殊詐欺の手法や被害の実態、防犯対策を知ることができてよかった。
- ・話の内容すべてが参考になった。

参加しての感想



〈まとめ〉

高齢者が人口の3分の1を占める時代、そのうち圧倒的多数を後期高齢者が占める。認知症患者も増える。こうした人々が安心して地域で暮らすためには、家族や地域での見守りが必要であると同時に高齢者の社会性に裏打ちされた自立がカギとなる。

よく高齢者の老害が指摘される。心身の老化や関係性の希薄化から心を閉ざし孤立する高齢者像を脱し、変化の激しい社会を安心して生き抜くためには社会の実態を学び、積極的に社会参加し、犯罪に引っかからないよう学び支え合う必要性を確認して分科会を終えた。

☆☆ 特殊詐欺被害に遭わないための心得 ☆☆

- ① 知らない番号からの電話は出ない！
 - ② 番号非通知でかけてくる犯人からの電話をブロック！
 - ③ 犯人と話をしない
 - ④ 慌てない、動揺しない
- 万一、どうも本当らしい、と思っても、
- ⑤ 振り込む前に、ひとりで判断せず、ご親戚や警察、金融機関等にまず相談を。
 - ⑥ 警察や銀行協会の職員などが、キャッシュカードを預かったり、暗証番号を聞いたりする

〈参加者の感想〉

- ・いつも気を付けていますが、さらに気をつけます。
- ・常に情報を得ておこうと思いました。
- ・こうした学ぶ機会があるといい。
- ・相手の話に乗らないこと、欲を出さないことを肝に銘じている。
- ・知らない訪問者や TEL には対応しないことが大切だと実感。
- ・内容が充実していてわかりやすかった。
- ・40年以上も前からナンバーディスプレイにしている。
- ・アナログからデジタルに変わるなど時代の変化に対応できるように学習し、知識を深めていこうと思っている。
- ・特殊詐欺の手法や被害の実態、防犯対策を知ることができてよかった。
- ・話の内容すべてが参考になった。

〈まとめ〉

高齢者が人口の3分の1を占める時代、そのうち圧倒的多数を後期高齢者が占める。認知症患者も増える。こうした人々が安心して地域で暮らすためには、家族や地域での見守りが必要であると同時に高齢者の社会性に裏打ちされた自立がカギとなる。

よく高齢者の老害が指摘される。心身の老化や関係性の希薄化から心を閉ざし孤立する高齢者像を脱し、変化の激しい社会を安心して生き抜くためには社会の実態を学び、積極的に社会参加し、犯罪に引っかからないよう学び支え合う必要性を確認して分科会を終えた。

参加しての感想

